



# 2024年9月期 第2四半期 連結決算 説明資料

2024年5月15日





# 目次

1. エグゼクティブ・サマリー
2. 2024年9月期 第2四半期 連結業績
3. 各事業セグメントの概況
  - 毎日の暮らし事業
  - ライフイベント事業



# 1. エグゼクティブ・サマリー



- 売上高は 6,891百万円（前年同期比 74.5%）、営業利益は ▲164百万円（前年同期は 585百万円）、EBITDA は 354百万円（前年同期比 32.1%）で着地

## 各事業の進捗

### 毎日の暮らし事業

- トクバイ事業は有料掲載店舗数が減少、ユーザー数も伸び悩みの傾向。
- 営業利益は昨年3月以降のメディア広告の減益インパクトが大きいが、生活総合情報メディア「くふうLive!」の事業譲渡を第1四半期に実施するとともに、外注費等のコスト削減を推進。

### ライフイベント事業

#### 住まい領域

- 厳しい市況の中、ハイアスグループは住宅施工の取扱い件数の伸び悩みや納期遅延等により減収減益。商材の多様化やウェブ集客支援の強化により、会員工務店の施工受注支援に注力。
- 不動産事業者向けSaaSツールの販売により安定収益を確保しつつ、相談サービスは商品ラインナップの拡充と相談カウンターの出店を強化し、ユーザー数及び成約数の拡大に注力。

#### 結婚領域

- コロナ禍を経て再成長に向けた土台を構築中。メディア事業は収益力強化に向けて商材拡充を推進するとともに、結婚式プロデュース事業は施行及び受注が増加傾向となり、通期での黒字化に向けて概ね計画通りの進捗。

### 投資・ インキュベーション事業

- 投資事業において、前年同期は営業投資有価証券の売却益を計上、当上期は大きな取引は発生せず。

## ユーザーの利便性強化に向けてブランド認知拡大とサービス連携に注力

### 「くふう」ブランドへの統合

### ユーザーID統合によるサービス連携

### 独自データ × AI技術

### 直近のブランド変更

#### ● 社名の変更

- ・しずおかオンライン→くふうしずおか (2024年4月)
- ・エニマリ→くふうウェディング (2024年5月)
- ・ハイアス→くふう住まいコンサルティング (2024年8月予定)

#### ● サービス名の変更

- ・イエタテ→くふうイエタテ (2024年3月)

 くふうしずおか

 くふうウェディング

 くふう住まいコンサルティング

くふう**イエタテ**

トクバイサービスを中心とした毎日の暮らし事業を成長軌道に戻すことが最優先

くふうカンパニー、ロコガイド、  
くふうAIスタジオの運営を一体化へ

3社の意思決定プロセスや  
営業機能・開発機能等を統合し、  
グループの経営リソースを集中

3社を一体的に運営することで  
業務の効率化・組織の活性化へ







## 静岡プロ野球新球団のネーミングライツを取得

- 2024年1月、静岡県初のプロ野球ファーム・リーグ参入のハヤテ223と資本業務提携契約を締結。
  - 球団のネーミングライツを取得し、球団名は「くふうハヤテベンチャーズ静岡」に決定。
- ◀ 2024年1月16日に都内で球団名発表記者会見を実施、テレビや新聞をはじめ20媒体以上が参加

 くふうしずおか

くふう **イエタテ**

## 静岡を起点にグループの地域事業の強化を目指す

- しずおかオンラインの社名を「株式会社くふうしずおか」へ変更（2024年4月）
- くふう住まいが静岡を中心に展開する地域密着型住まいメディア及びサービス「イエタテ」を「くふうイエタテ」にブランド変更（2024年3月）、相談カウンターの出店強化へ

## 2. 2024年9月期 第2四半期 連結業績



- 毎日の暮らし事業の立て直しに向けた構成会社の絞り込みなど、グループ全体でセグメント構成の見直しを実施

## 毎日の暮らし事業

ロコガイド

くふうAIスタジオ

## ライフイベント事業

- ハイアス・アンド・カンパニーグループ
- くふう住まい
- くふうウェディング

## 投資・インキュベーション事業

- くふうしずおか
- キッズスター

- Seven Signatures International (SSI)

- ゴールドエッグス ※ (当第2四半期よりP/L連結開始)

- RETRIP
- くふうジオデータ
- くふう少額短期保険
- くふうキャピタル
- くふうカンパニー (投資事業)

# 2024年9月期 連結業績予想

- 2024年9月期は営業利益 700百万円（前期比 37.2%）、EBITDA 1,800百万円（前期比 61.5%）の見通し
- 中期計画（グループ経営目標）については見直しを検討中

	20/9期 ※	21/9期 ※	22/9期	23/9期	24/9期	
	実績	実績	実績	実績	予想	前期比
<b>売上高</b>	6,042	11,256	18,625	20,486	<b>16,000</b>	78.1 %
<b>営業利益</b>	604	1,000	1,558	1,882	<b>700</b>	37.2 %
<b>EBITDA</b>	890	1,617	2,581	2,926	<b>1,800</b>	61.5 %

（単位：百万円）

※ 2020年9月期（2019年10月～2020年9月）及び2021年9月期（2020年10月～2021年9月）の実績は、それぞれの期間における旧(株)くふうカンパニー及び(株)ロコガイドの連結業績を単純合算した金額（非監査）。



# 連結業績 売上高 ※1

- 上期の売上高は6,891百万円、前年同期比 74.5%
- 通期業績予想に対する進捗率は 43.1%

	23/9期	24/9期			
	上期 <small>※2</small>	上期 <small>※3</small>	前年同期比	通期 予想	進捗率
<b>売上高</b>	<b>9,246</b>	<b>6,891</b>	74.5%	<b>16,000</b>	43.1%
毎日の暮らし事業	1,577	1,537	97.4%	-	-
ライフイベント事業	5,490	4,471	81.4%	-	-
投資・インキュベーション事業	2,159	1,051	48.7%	-	-
その他	109	-	-	-	-
調整額	▲91	▲168	-	-	-

(単位：百万円)

※1：2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりセグメント区分を変更したことに伴い、2024年第1四半期及び2023年9月期は遡及修正後の数値を反映（詳細は8ページ参照）。

※2：ライフイベント事業においてOMソーラー(株)を、投資・インキュベーション事業において(株)RETRIPを2023年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

※3：投資・インキュベーション事業において(株)ゴールドエッグスを2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

# 連結業績 営業利益・EBITDA ※1

- 上期のEBITDAは 354百万円、前年同期比 32.1%
- 通期業績予想に対する進捗率は 19.7%

	23/9期	24/9期			
	上期 ※2	上期 ※3	前年同期比	通期 予想	進捗率
<b>営業利益</b>	<b>585</b>	<b>▲164</b>	-	<b>700</b>	- %
毎日の暮らし事業	501	346	69.1 %	-	-
ライフイベント事業	241	88	36.6 %	-	-
投資・インキュベーション事業	458	▲70	-	-	-
その他	▲105	-	-	-	-
調整額	▲511	▲528	-	-	-
<b>EBITDA</b>	<b>1,104</b>	<b>354</b>	32.1 %	<b>1,800</b>	19.7 %

(単位：百万円)

※1：2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりセグメント区分を変更したことに伴い、2024年第1四半期及び2023年9月期は遡及修正後の数値を反映（詳細は8ページ参照）。

※2：ライフイベント事業においてOMソーラー(株)を、投資・インキュベーション事業において(株)RETRIPを2023年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

※3：投資・インキュベーション事業において(株)ゴールドエッグスを2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。



- 前年同期比で減収減益

	23/9期				24/9期			
	Q1	Q2 ※1	Q3	Q4	Q1	Q2 ※2	前年同期比	前四半期比
<b>売上高</b>	4,883	4,362	6,543	4,696	3,263	3,627	83.1 %	111.1 %
<b>営業利益</b>	433	151	1,023	274	▲117	▲47	-	-
<b>EBITDA</b>	685	418	1,285	536	134	219	52.3 %	162.3 %

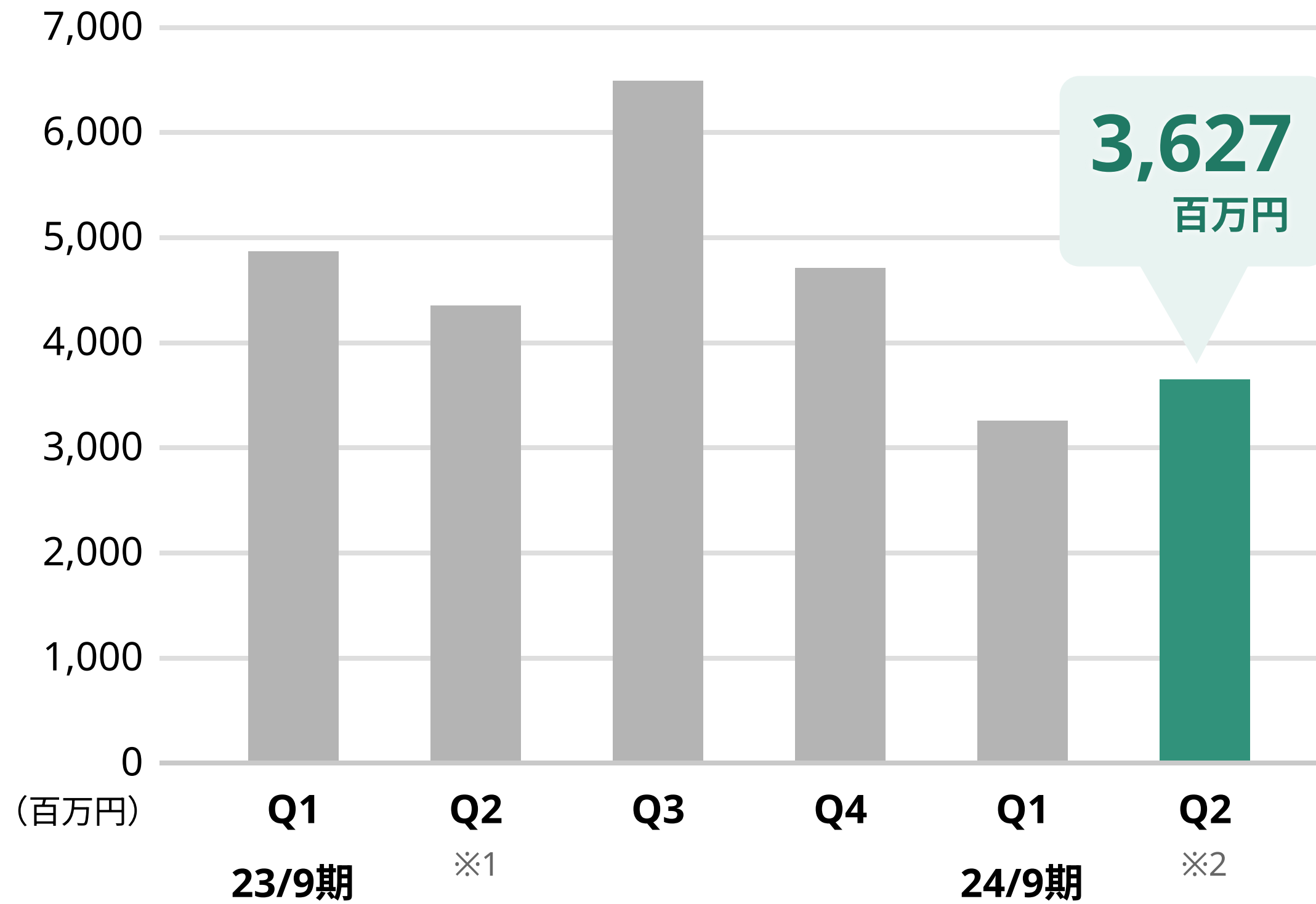
(単位：百万円)

※1：ライフイベント事業において OMソーラー(株) を、投資・インキュベーション事業において (株)RETRIP を2023年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

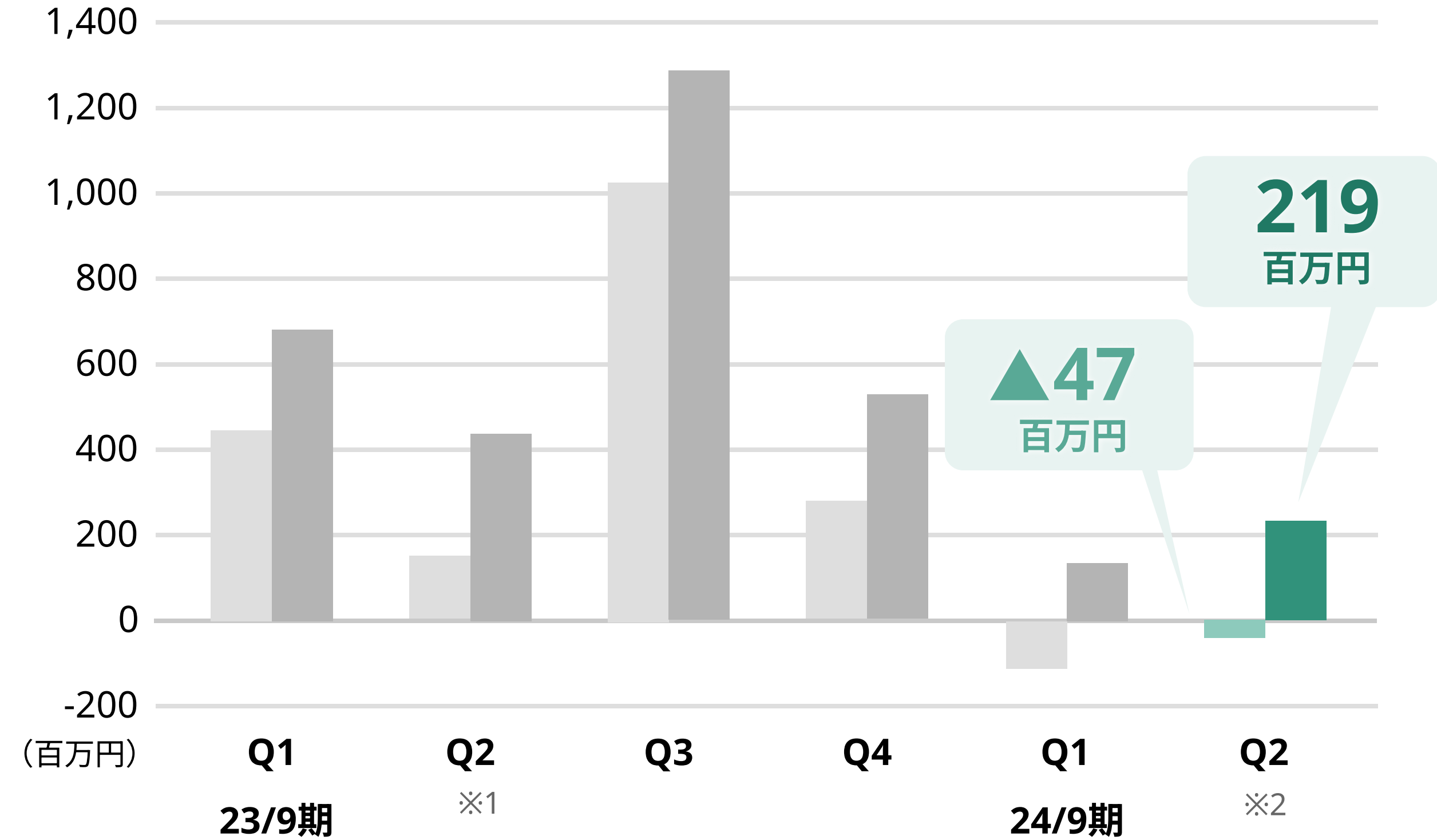
※2：投資・インキュベーション事業において (株)ゴールドエッグスを2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

- 前年同期比で減収減益

売上高



営業利益 EBITDA



※1：ライフイベント事業において OMソーラー(株) を、投資・インキュベーション事業において (株)RETRIP を2023年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

※2：投資・インキュベーション事業において (株)ゴールドエッグスを2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。



# 連結業績 セグメント別 売上高（四半期）

- ・ 毎日の暮らし事業は第1四半期における一部メディアの事業譲渡等を主因に前年同期比で減収
- ・ ライフイベント事業は住まい領域を中心に前年同期比で減収

		23/9期				24/9期			
		Q1	Q2 ※1	Q3 ※2	Q4 ※3	Q1	Q2 ※4	前年同期比	前四半期比
売上高	毎日の暮らし事業	771	806	698	856	772	764	94.8%	98.9%
	ライフイベント事業	2,515	2,975	3,236	3,076	2,150	2,320	78.0%	107.9%
	投資・インキュベーション事業	1,590	569	2,602	852	426	625	109.9%	146.6%
	その他	50	58	80	-	-	-	-	-
	調整額	▲43	▲47	▲74	▲88	▲86	▲82	-	-
	合計	4,883	4,362	6,543	4,696	3,263	3,627	83.1%	111.1%

(単位：百万円)

※1：ライフイベント事業において OMソーラー(株) を、投資・インキュベーション事業において (株)RETRIP を2023年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

※2：組織再編に伴い、2023年9月期 第3四半期連結会計期間より一部事業の計上セグメントを投資・インキュベーション事業からライフイベント事業へ変更。

※3：2023年7月1日付で (株)Zaim 及び (株)Da Vinci Studio が合併したことに伴い、2023年9月期 第4四半期連結会計期間より、旧 (株)Da Vinci Studio の売上高は計上セグメントをその他から毎日の暮らし事業へ変更。

※4：2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりセグメント区分を変更したことに伴い、2024年第1四半期及び2023年9月期は遡及修正後の数値を記載（詳細は8ページ参照）。

# 連結業績 セグメント別 営業利益（四半期）

- ・ 毎日の暮らし事業は前年同期に比べてメディア広告の減益インパクトが大きい
- ・ ライフイベント事業は住まい領域の減収を主因に前年同期比で減益

		23/9期				24/9期			
		Q1	Q2 ※1	Q3 ※2	Q4 ※3	Q1	Q2 ※4	前年同期比	前四半期比
営業利益	毎日の暮らし事業	250	251	143	183	163	182	72.6%	111.3%
	ライフイベント事業	109	132	192	246	8	80	60.5%	960.2%
	投資・インキュベーション事業	405	53	983	107	▲58	▲12	-	-
	その他	▲61	▲44	▲44	-	-	-	-	-
	調整額	▲269	▲242	▲252	▲263	▲231	▲297	-	-
	合計	433	151	1,023	274	▲117	▲47	-	-

(単位：百万円)

※1：ライフイベント事業において OMソーラー(株) を、投資・インキュベーション事業において (株)RETRIP を2023年9月期 第2四半期連結会計期間よりP/L連結開始。

※2：組織再編に伴い、2023年9月期 第3四半期連結会計期間より一部事業の計上セグメントを投資・インキュベーション事業からライフイベント事業へ変更。

※3：2023年7月1日付で (株)Zaim 及び (株)Da Vinci Studio が合併したことに伴い、2023年9月期 第4四半期連結会計期間より、旧 (株)Da Vinci Studio の損益は計上セグメントをその他から毎日の暮らし事業へ変更。

※4：2024年9月期 第2四半期連結会計期間よりセグメント区分を変更したことに伴い、2024年第1四半期及び2023年9月期は遡及修正後の数値を記載（詳細は8ページ参照）。

	2023年9月末	2024年3月末	増減額	増減要因
流動資産	14,122	11,209	▲2,913	
（現金及び預金）	9,405	5,754	▲3,651	・ 子会社株式の取得、借入金の返済、自己株式の取得等により 現金及び預金が 3,651百万円減少
（営業投資有価証券）	1,334	1,472	138	
（販売用不動産）	1,232	1,257	25	
固定資産	6,851	7,285	434	
（のれん）	3,591	3,845	254	・ ゴールドエッグスの連結開始等の影響により、のれんが 254百万円増加
（投資その他の資産）	1,795	1,785	▲10	
<b>資産</b>	<b>20,973</b>	<b>18,494</b>	<b>▲2,479</b>	
負債	9,376	8,249	▲1,127	
（短期借入金及び長期借入金）	5,349	4,436	▲913	・ 短期借入金及び長期借入金が 913百万円減少
純資産	11,596	10,245	▲1,351	
（資本金）	13	30	16	・ 株式交換に関連して増加した資本金及び資本準備金の振り替え等により資本剰余金が 985百万円増加
（資本剰余金）	8,452	9,437	985	
（利益剰余金）	1,739	1,337	▲401	・ 自己株式は3月末までの取得等により 710百万円増加
（自己株式）	▲132	▲843	▲710	
（その他有価証券評価差額金）	▲13	▲6	6	・ ハイアスの完全子会社化等により非支配株主持分が 1,242百万円減少
（非支配株主持分）	1,157	274	▲1,242	
<b>負債及び純資産</b>	<b>20,973</b>	<b>18,494</b>	<b>▲2,479</b>	

※ ( ) 記載している項目の金額は内書を表示。

(単位：百万円)



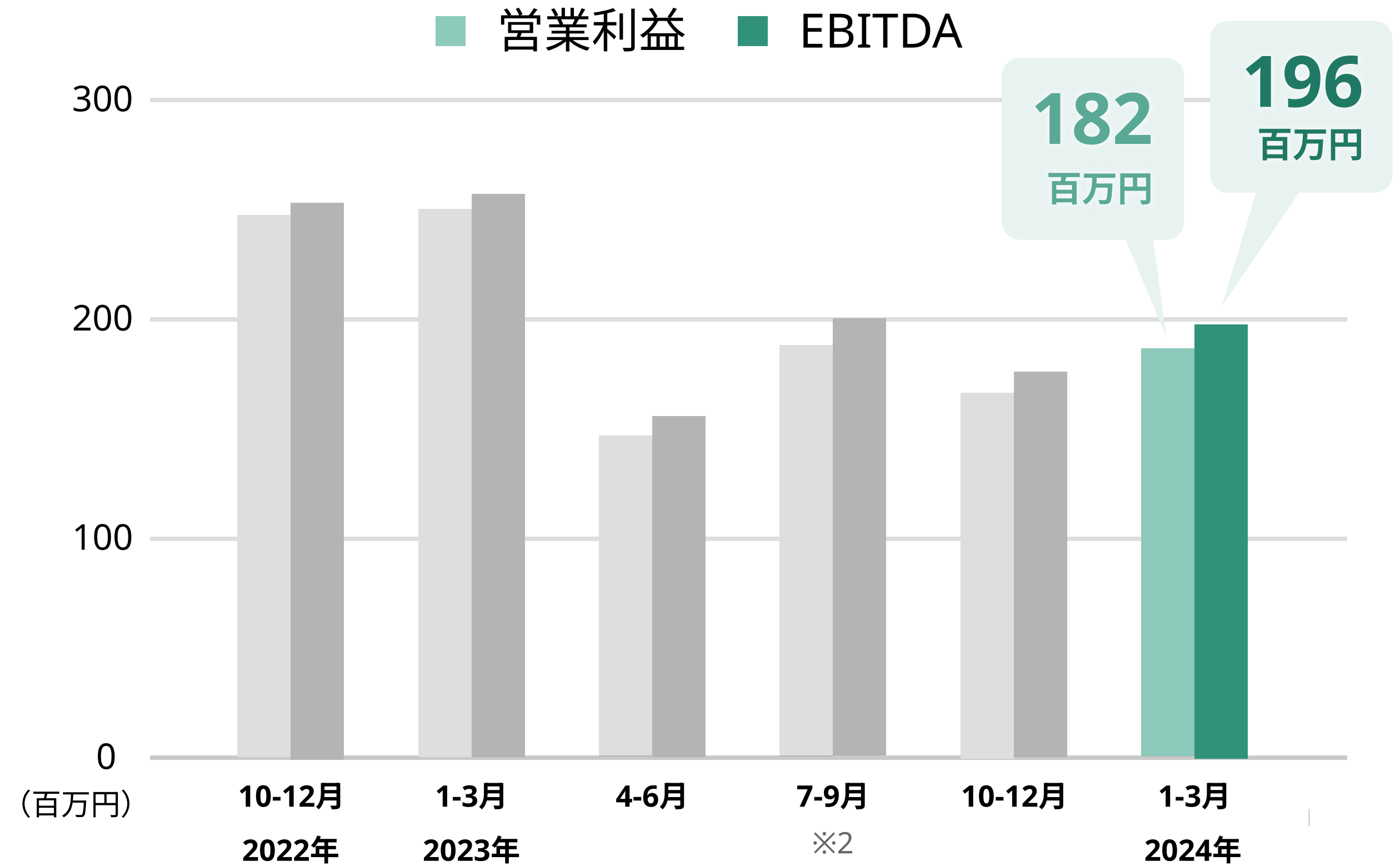
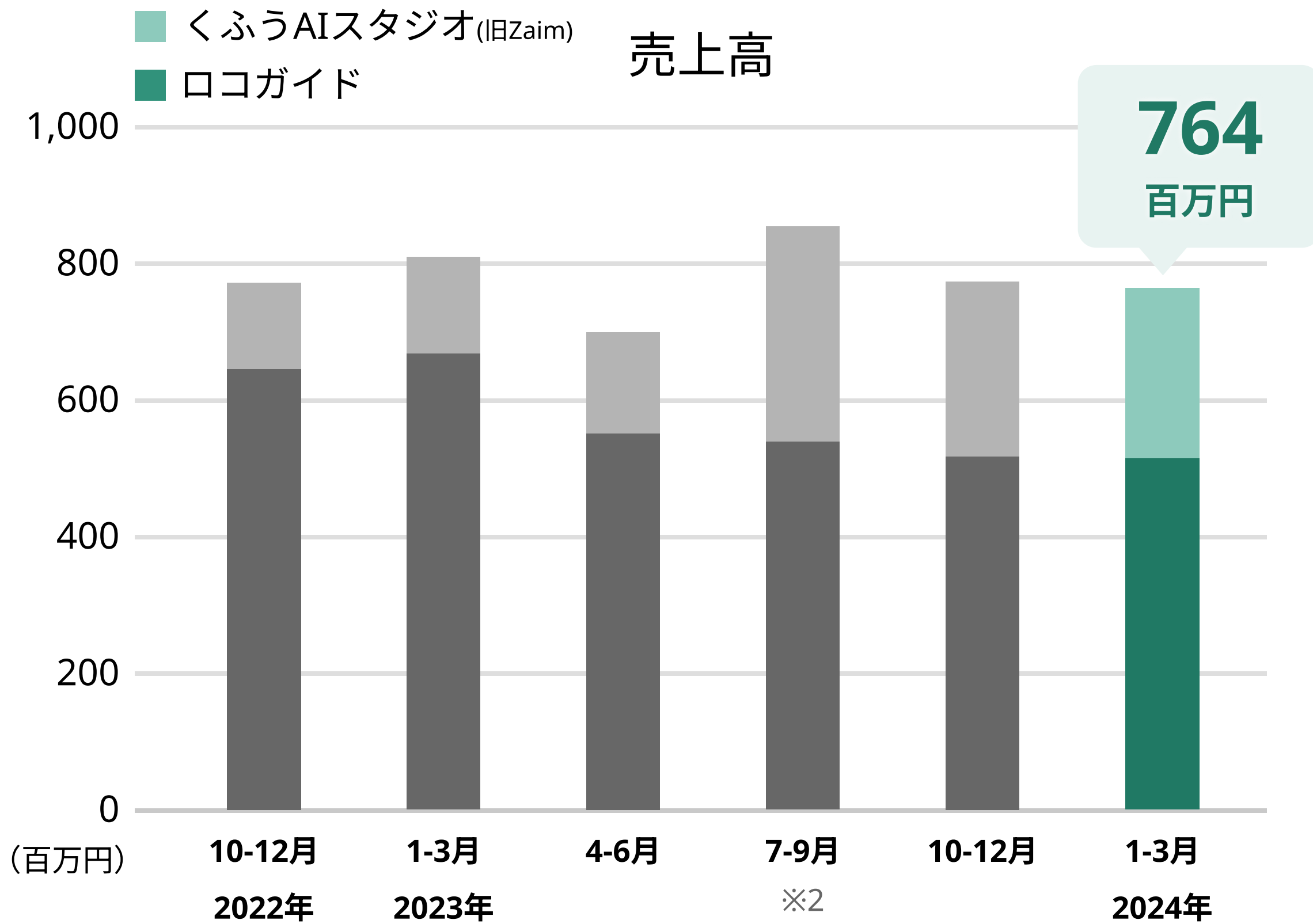
# 3. 各事業セグメントの概況

# 毎日の暮らし事業



# 毎日の暮らし事業 業績 四半期推移 ※1

- トクバイ事業は有料掲載店舗数が減少、ユーザー数も伸び悩みの傾向
- 営業利益は昨年3月以降のメディア広告の減益インパクトが大きいですが、生活総合情報メディア「くふうLive!」の事業譲渡を第1四半期に実施するとともに、外注費等のコスト削減を推進



※1：2024年9月期 第2四半期連結会計期間より (株)くふうしずおか及び (株)キッズスターのセグメント計上区分を投資・インキュベーション事業に変更。グラフは遡及修正後の数値を反映。

※2：2023年7月1日付で (株)Zaim 及び (株)Da Vinci Studio が合併し、存続会社の (株)Zaim を (株)くふう AI スタジオ に商号変更。

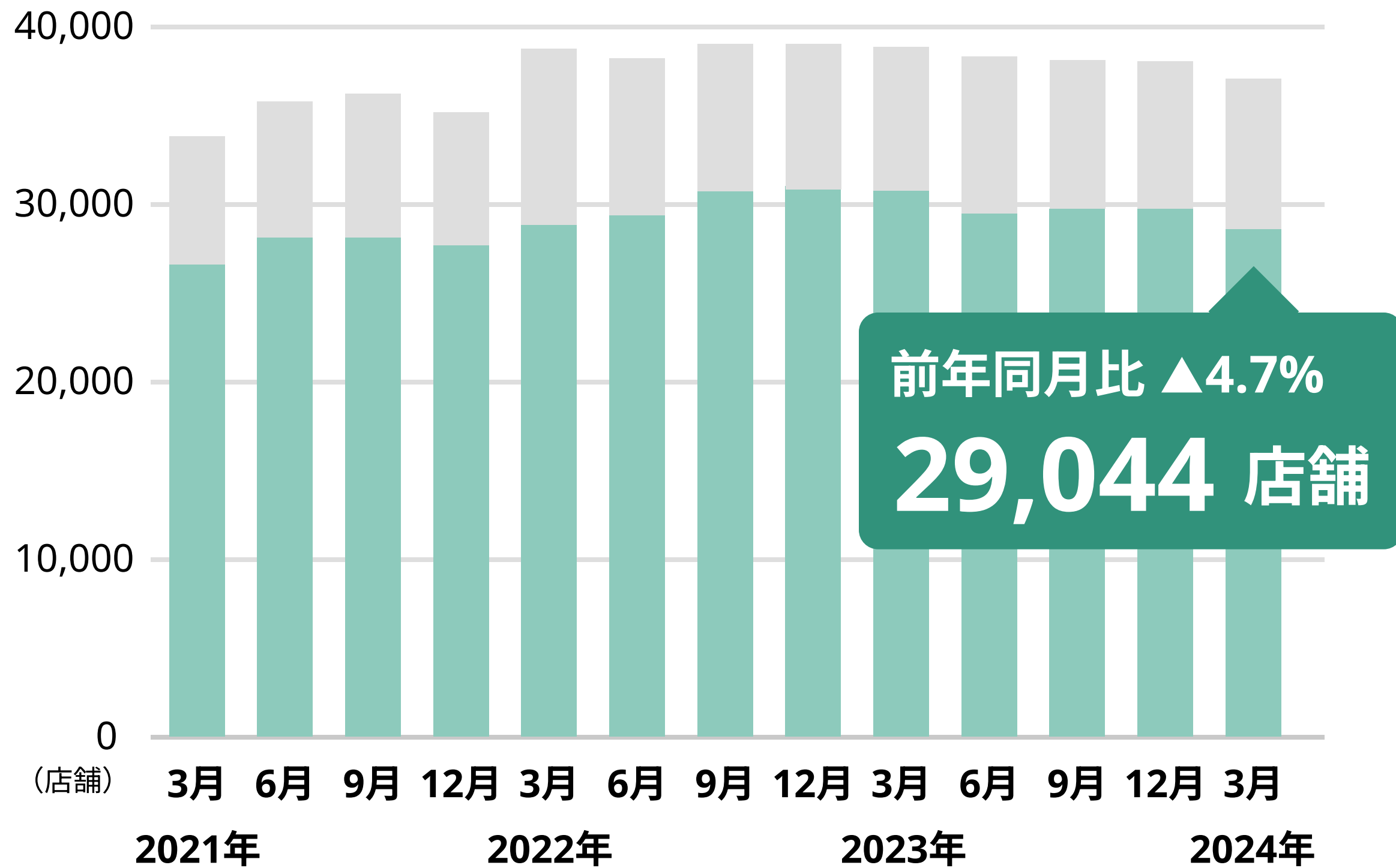


# トクバイサービス有料掲載店舗数と平均単価の推移\*

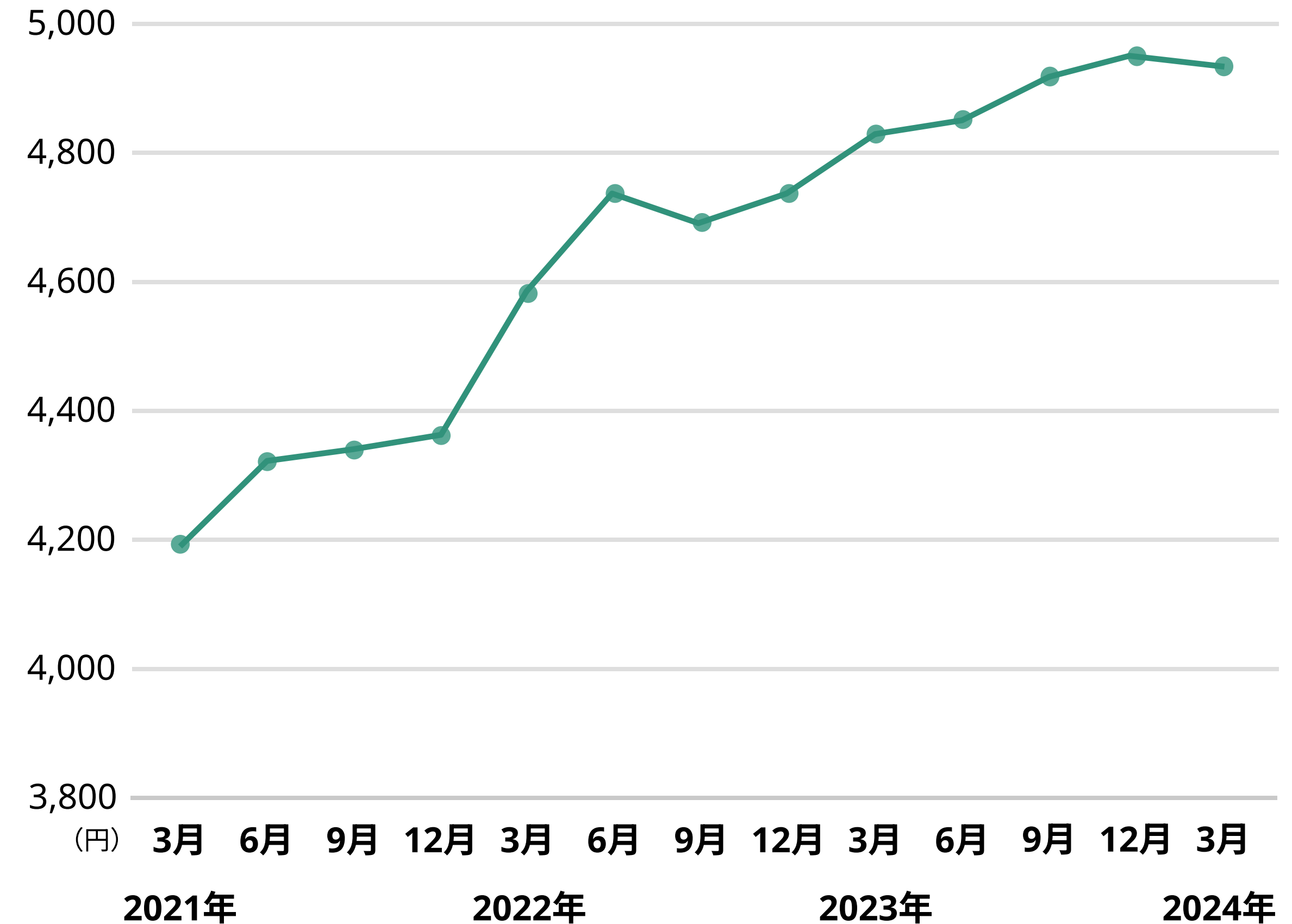
- 2024年3月末時点の有料掲載店舗数は 37,397店舗（定額課金店舗数は前年同月比 ▲4.7% の 29,044店舗）

有料掲載店舗数の推移

■ 定額課金店舗 ■ 成果報酬店舗



定額課金店舗の平均単価の推移

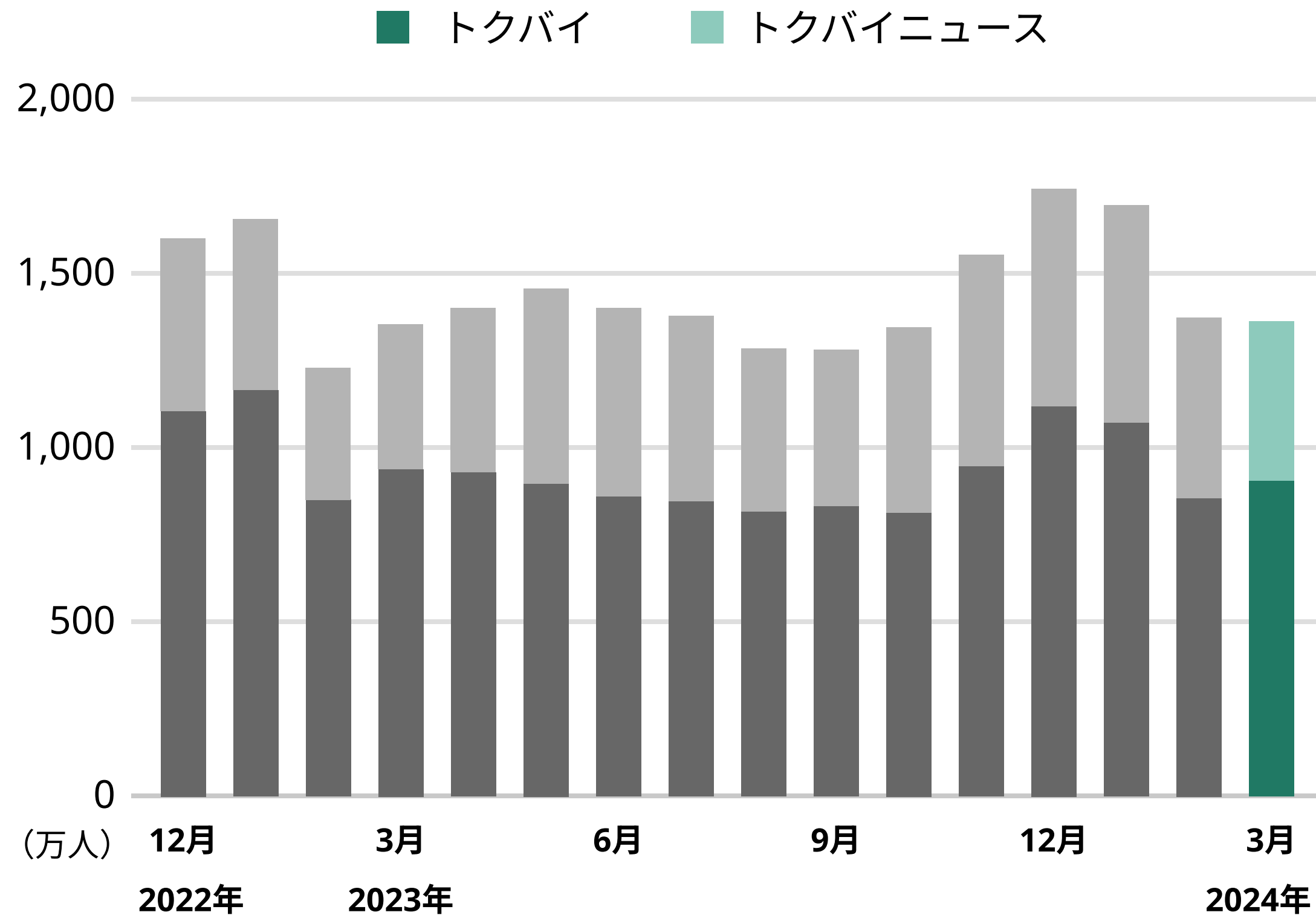


\* 定額課金店舗の店舗数及び平均単価において、コンビニエンスストア約 16,000 店舗との取り組みについては不算入。

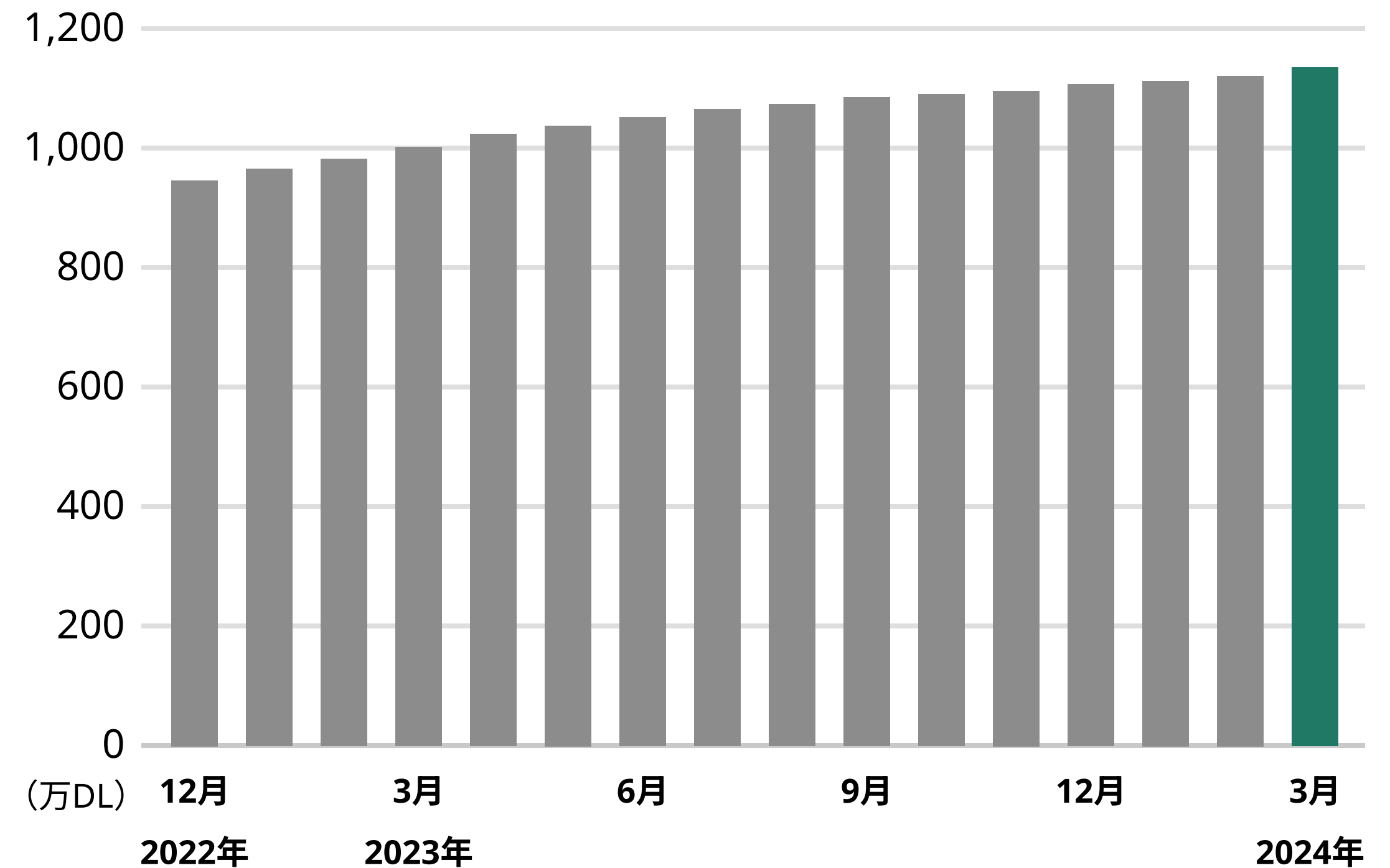
# トクバイサービス月間利用者数とアプリDL数の推移

- 2024年3月末時点のトクバイサービス月間利用者数は約1,400万人、累計アプリDL数は約1,100万
- 2024年3月末時点のコアユーザー数※は337万人（2023年3月末時点は325万人）

月間利用者数



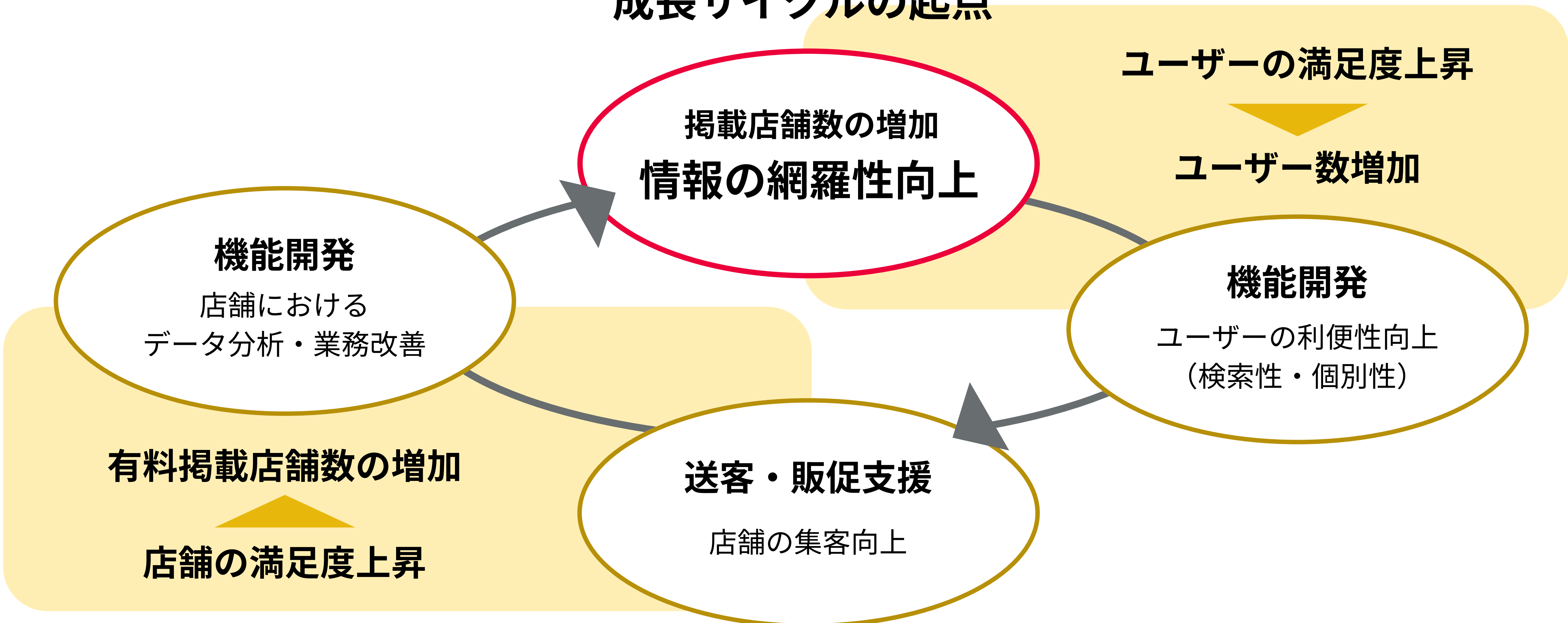
アプリDL数（累計）



※ 記事閲覧等のライトな利用ではなく、チラシやレシピ、クーポン機能といった生活行動につながる機能を週1回以上利用するユーザーを集計。

- 成長サイクルの起点となる「情報の網羅性向上」が足元で停滞していることが、成長のボトルネックに
- 掲載店舗数の増加に向けて、強い営業組織の再構築が急務

## 成長サイクルの起点

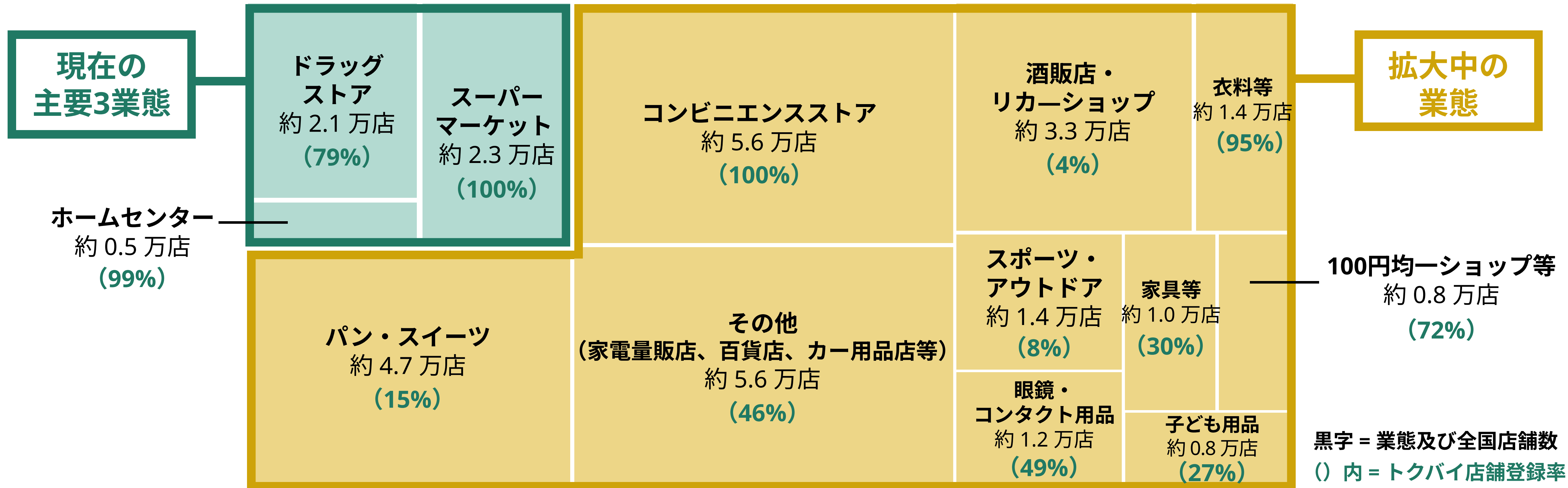




# 小売の情報掲載業態の拡大に注力

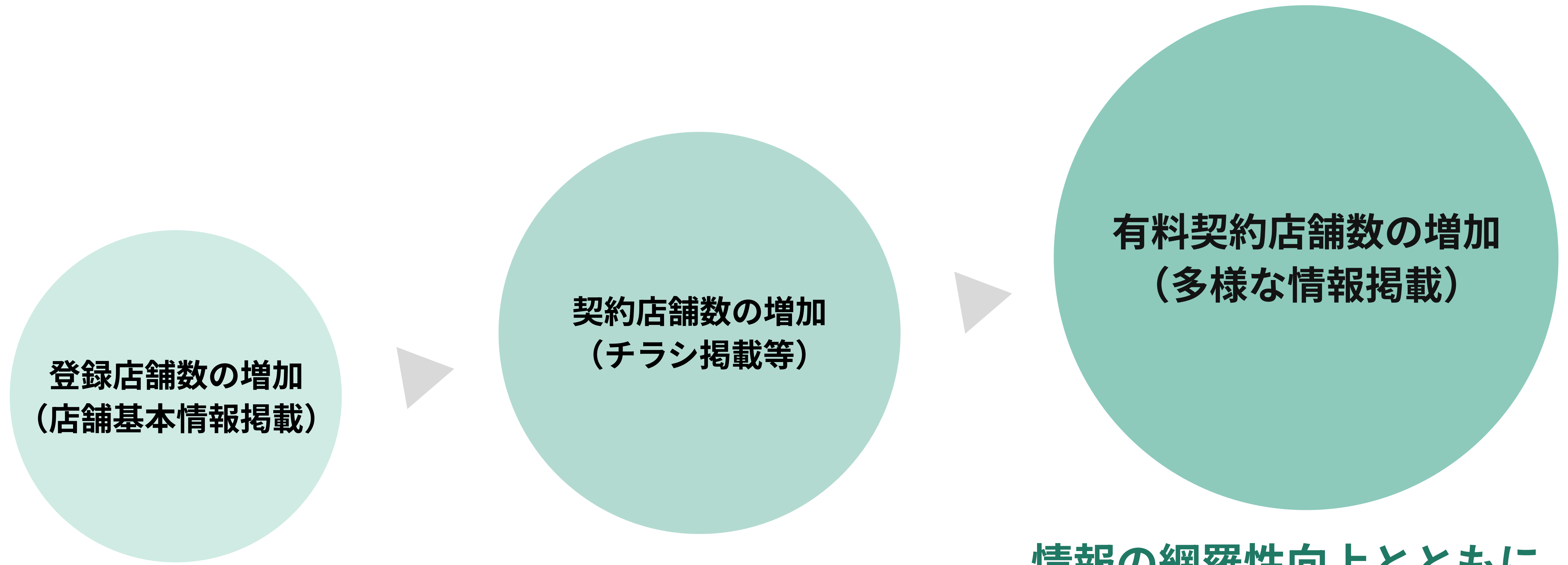
- ユーザーの多様な買い物シーンをサポートしていくとともに、各小売業態の販促支援を強化していく

小売における注力業態（約25業態）の市場合計：約 31 万店 ※  
 2024年3月時点のトクバイ登録店舗数：約 17 万店（登録率54%）



※ 総務省「令和3年経済センサス」、各業態の協会による公表値、その他調査会社による公表値等を基に当社集計。

- スーパーマーケット、ドラッグストア、ホームセンターに次ぐ小売業態における登録店舗の網羅率を向上中
- 掲載店舗数と1店舗当たりの情報掲載量拡大を通じて、情報の網羅性向上と事業成長を実現していく



情報の網羅性向上とともに、  
事業を拡大

**日常生活における**

**新たなユーザー体験の提供に向けた取り組み**



# 日常における買い物シーンを支援する業態を拡大

- 毎日から季節ごとまで、ユーザーの日常における買い物をより広い分野でサポート

## 毎日～週に1回

Daily/Weekly



スーパーマーケット

ドラッグストア

コンビニエンスストア

パン・スイーツ

酒販店・リカーショップ

## 月に1回

Monthly



ホームセンター

100円均一ショップ

キッズ・ベビー用品

ペット用品

百貨店・ショッピングセンター

## 季節に1回

Seasonally



家電量販店

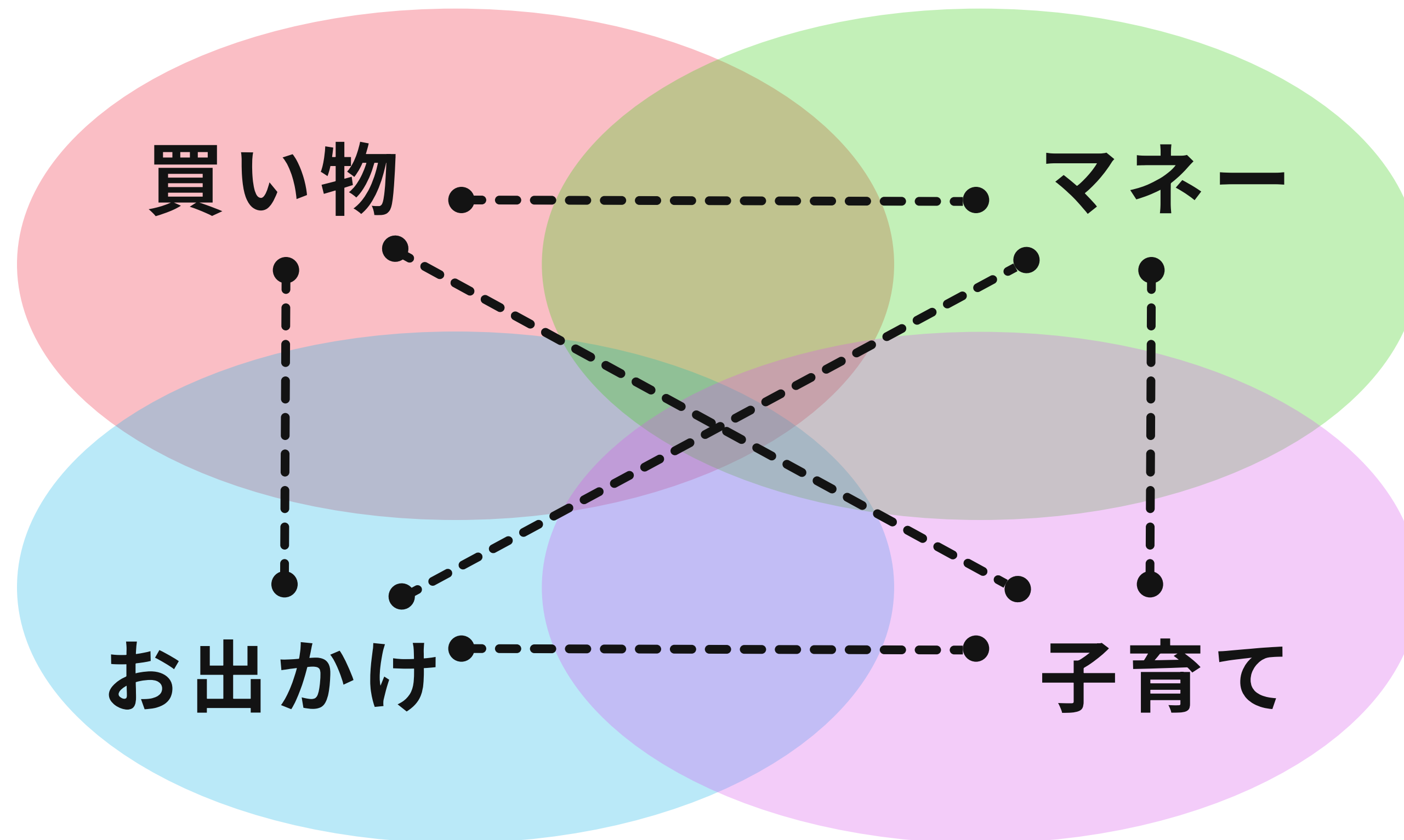
ファッション

カー用品

家具・インテリア

スポーツ・アウトドア

- 買い物を起点にグループの各サービスと重層的に連携し、ユーザーの日常生活を広く・深く支援
- アカウントの共通ID化によりサービス間をシームレスに接続



# 一人ひとりの日常に寄り添うようサービス接点を拡大

- ユーザーのリアルな生活に合わせ、サービスをまたいで行動を提案

## 例：ユーザーの休日におけるサービスとの接点

水族館など施設を予約する



おでかけ

行き

行きにクーポンを使って  
飲み物や食べ物を買う



買い物

施設

子どもの年齢や好みに  
合わせて楽しむ



おでかけ

子育て

帰り

帰りにスーパーで  
夕飯の食材を買う



買い物

帰宅後

買ったものを記録する



マネー

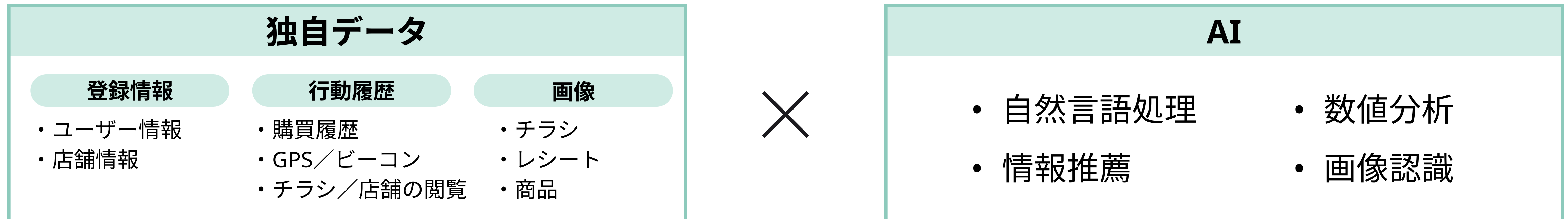


- 独自に蓄積したデータに AI 技術を掛け合わせ、ユーザーと企業の双方に響く価値を創出

to C

## 個人に最適な情報の提供

- 普段の行動範囲にフィットした情報
- 「今」「ここで」知りたい情報
- 顕在化していないニーズに沿った情報



to B

## 地域に密着したマーケティング支援

- 町丁目単位で配布可能なデジタルスポットチラシ
- ユーザーの興味関心や行動に基づくターゲティング広告および販促分析
- 詳細なユーザー動向レポート

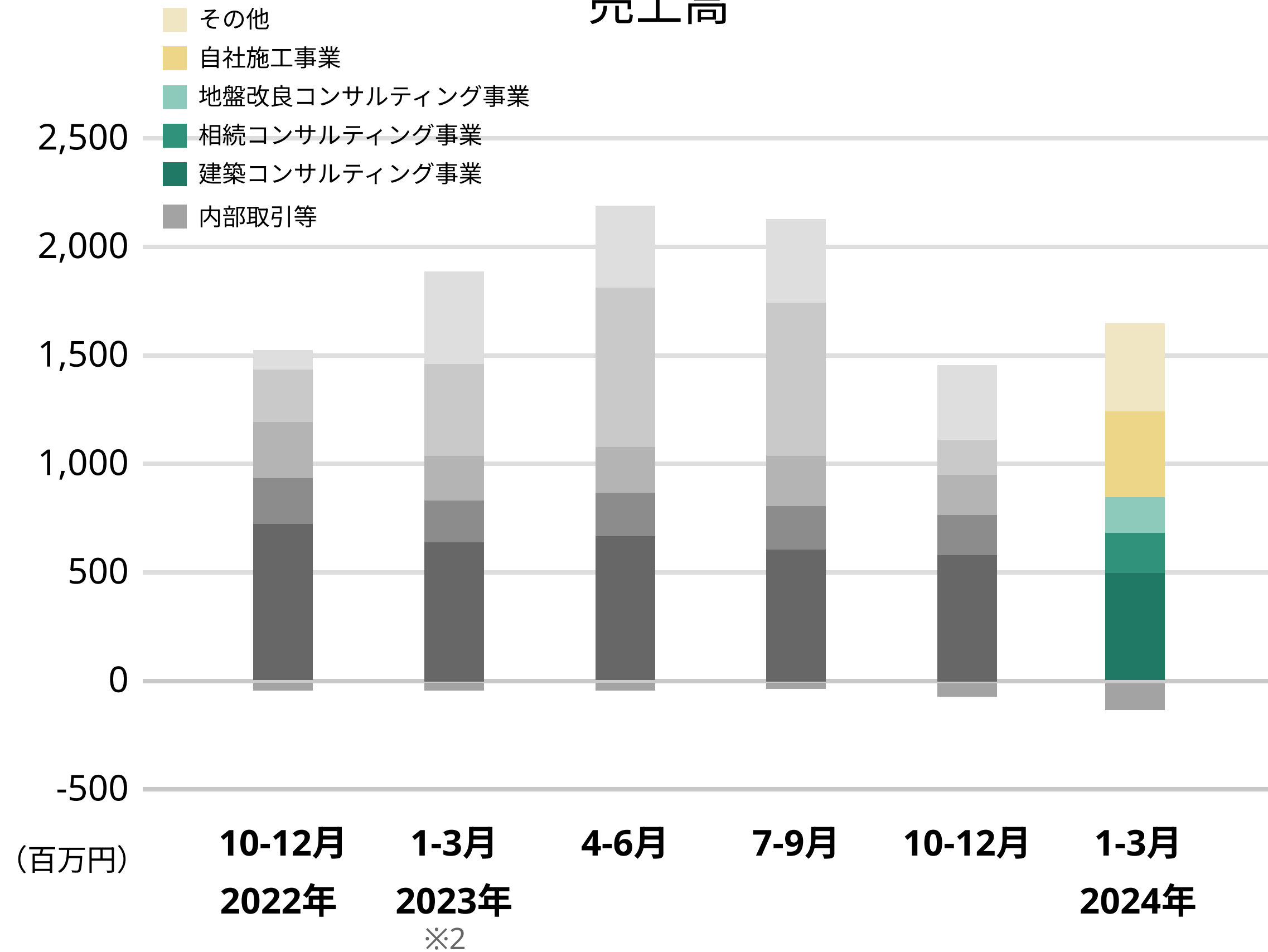
# ライフイベント事業



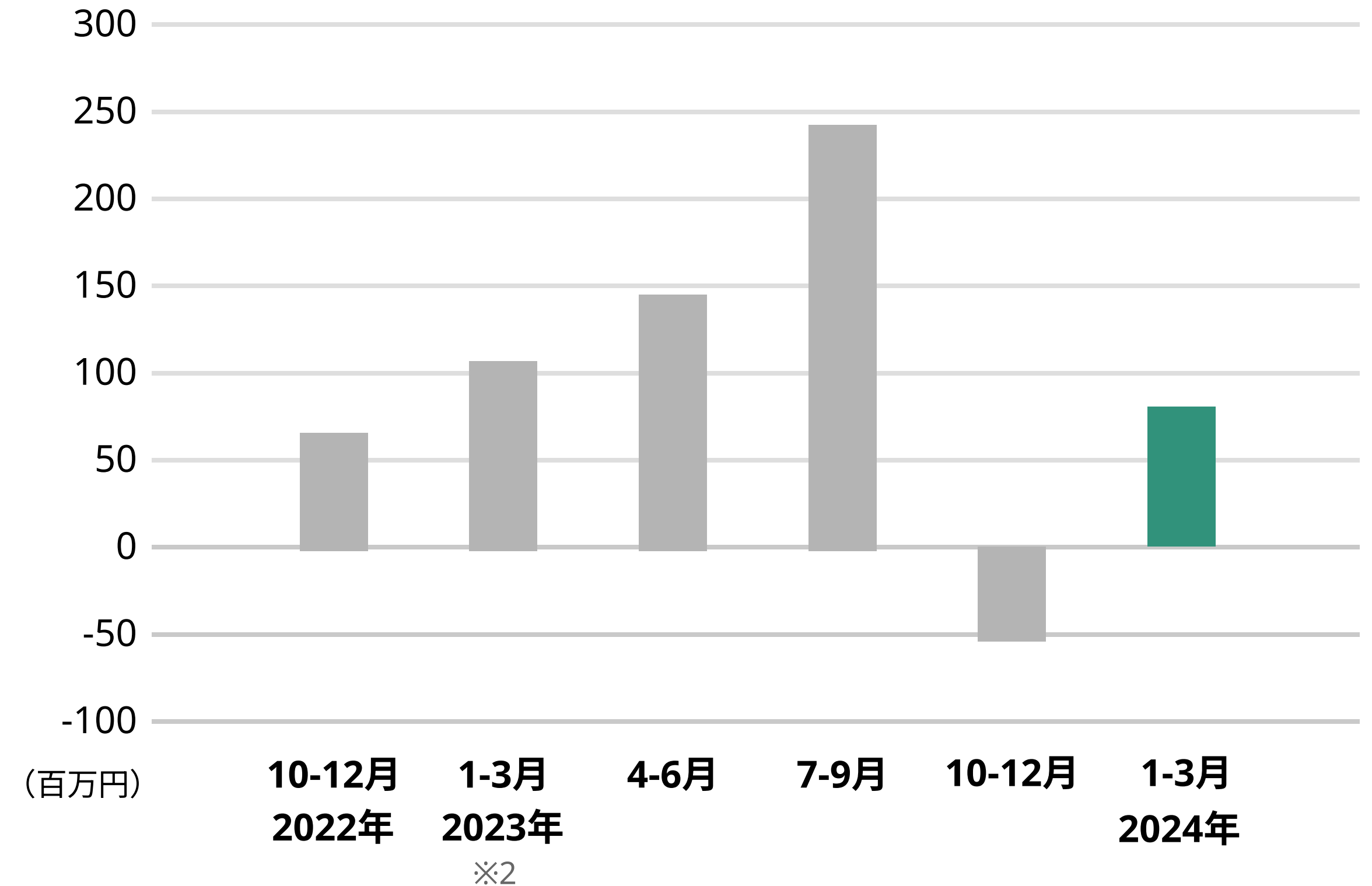
# 住まい領域（ハイアスグループ※1） 連結業績 四半期推移

- 自社施工事業における納期遅延傾向の一部解消に伴い、売上高が前四半期比で増加
- 管理業務の効率化により利益が改善

## 売上高



## 営業利益



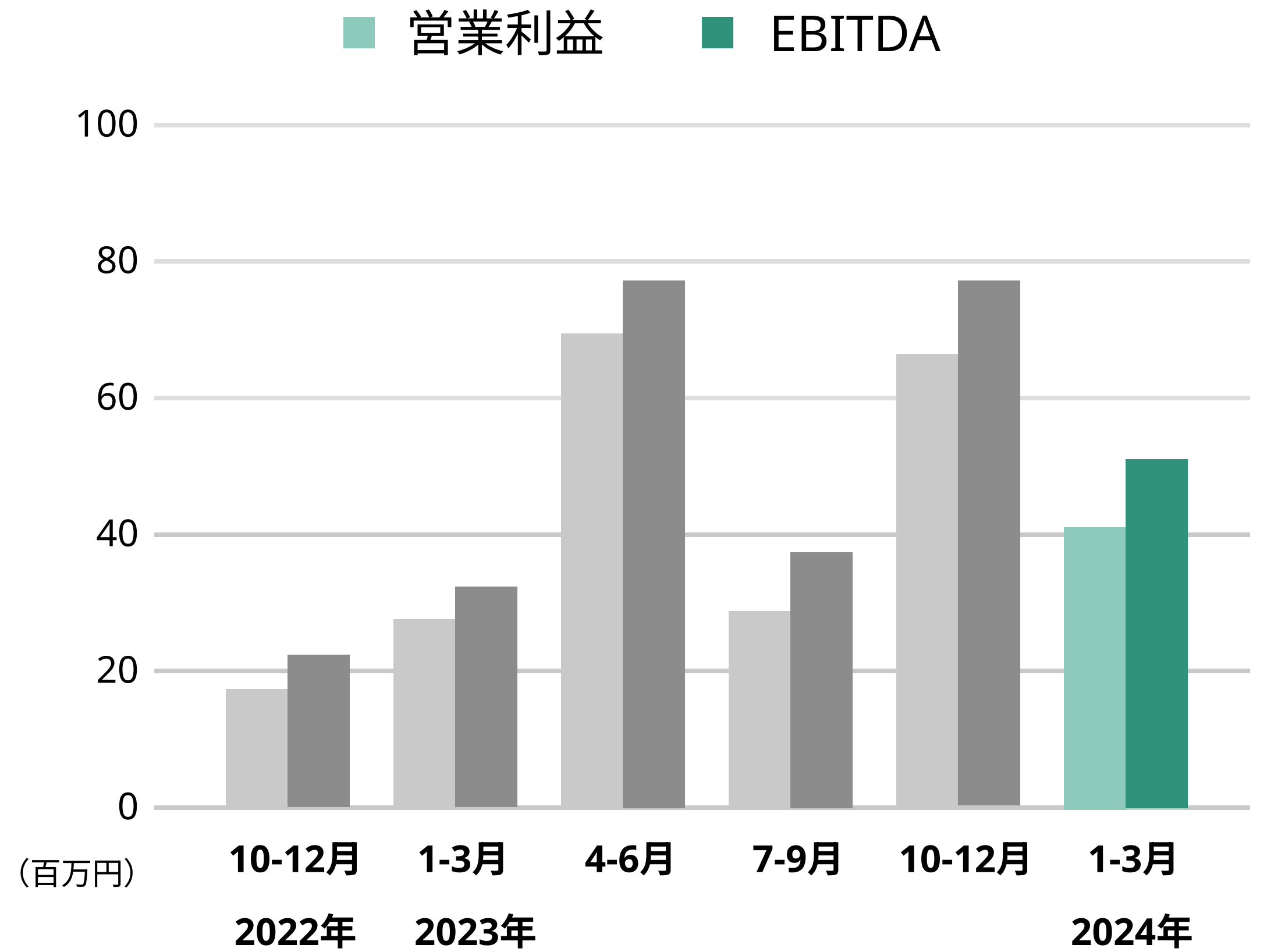
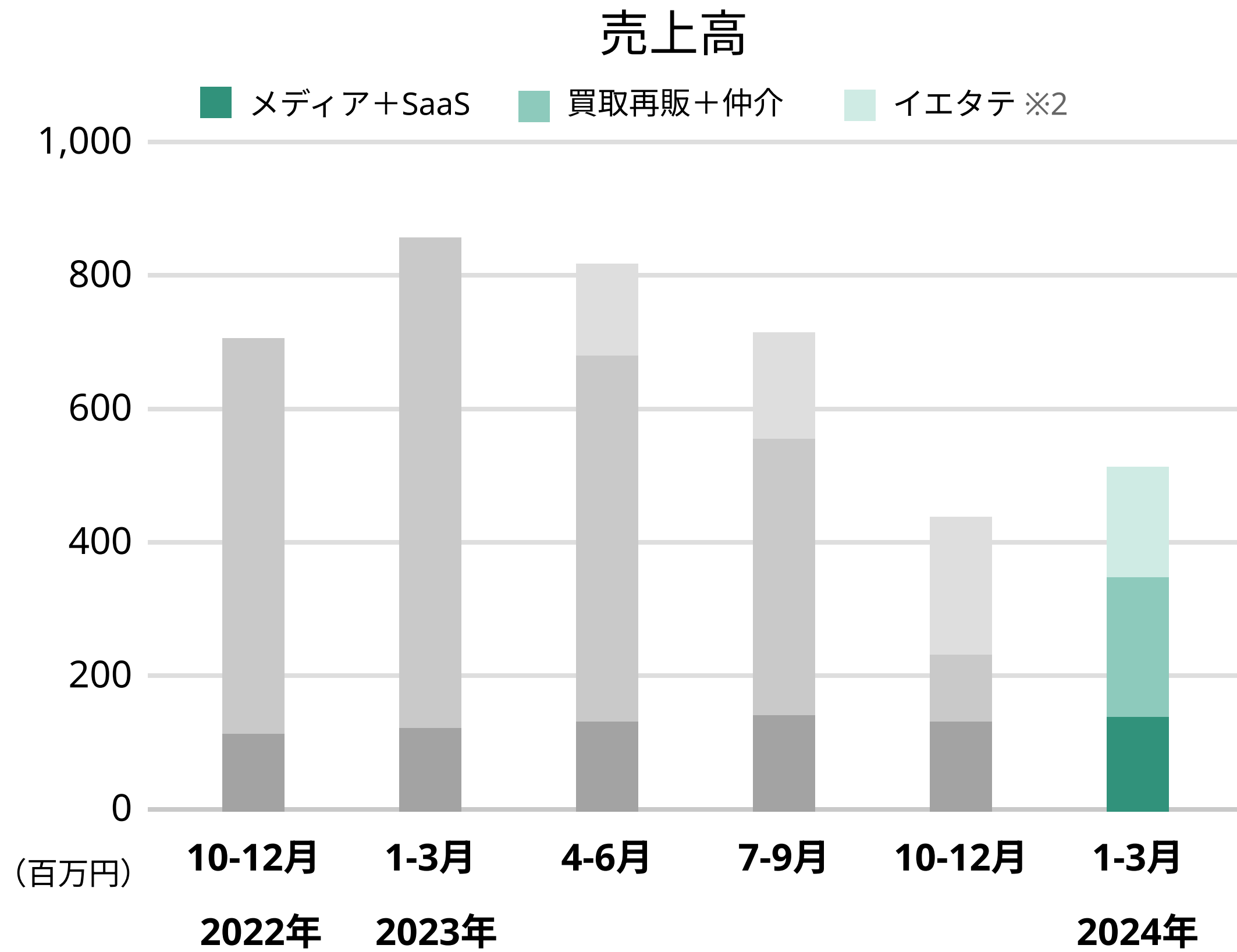
※1：2024年2月1日付で ハイアス・アンド・カンパニー(株) を完全子会社化。

※2：2023年1-3月より OMソーラー(株) をP/L連結開始。



# 住まい領域（くふう住まい<sup>※1</sup>）業績 四半期推移

- SaaSツールの販売が堅調に推移
- イエタテ事業は相談カウンターの成約数増加等が業績に寄与、新店舗（3月に2出店）の順調な立ち上がりにより相談数が増加
- 買取再販サービスは、前期からの在庫整理が順調に進捗

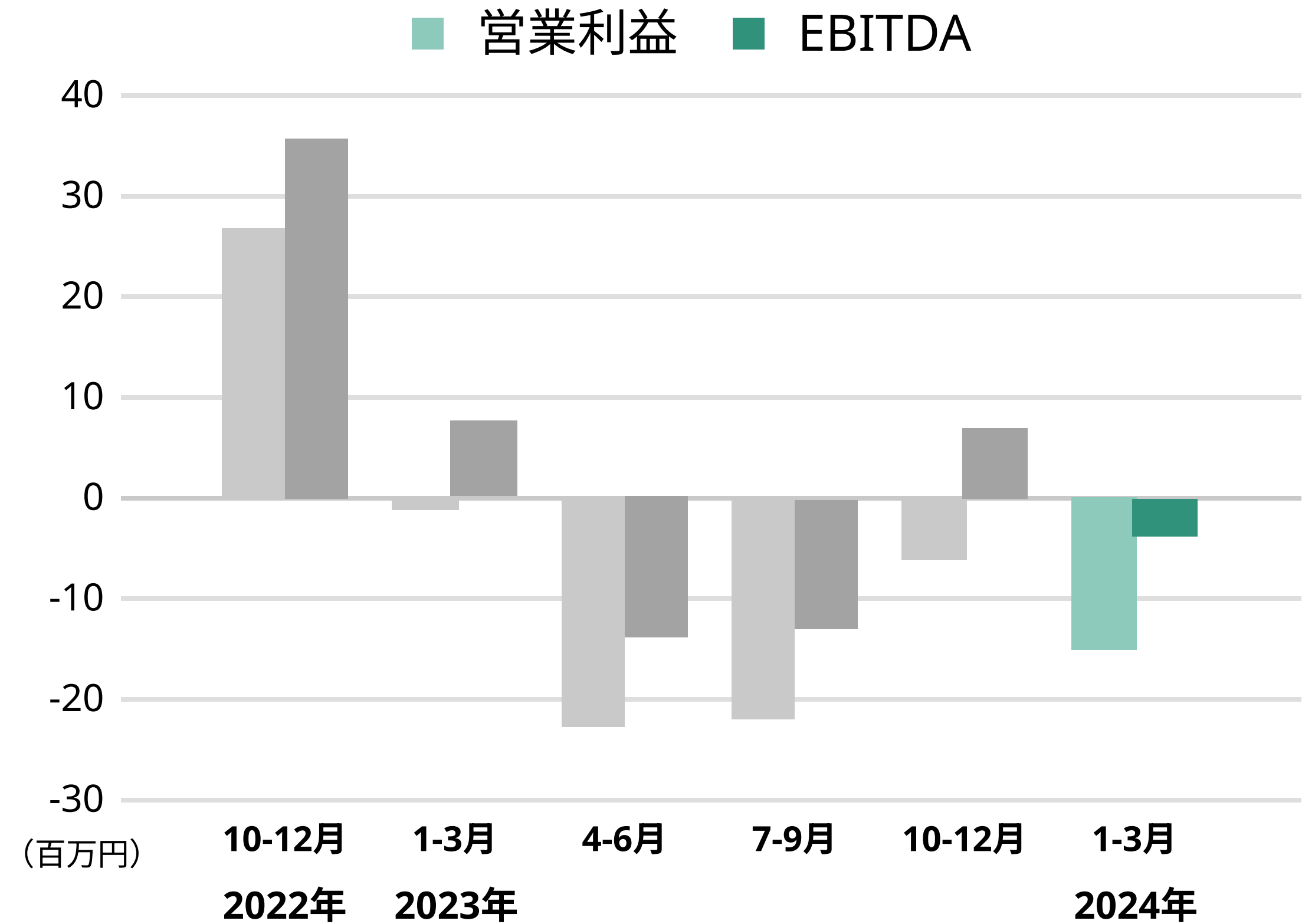
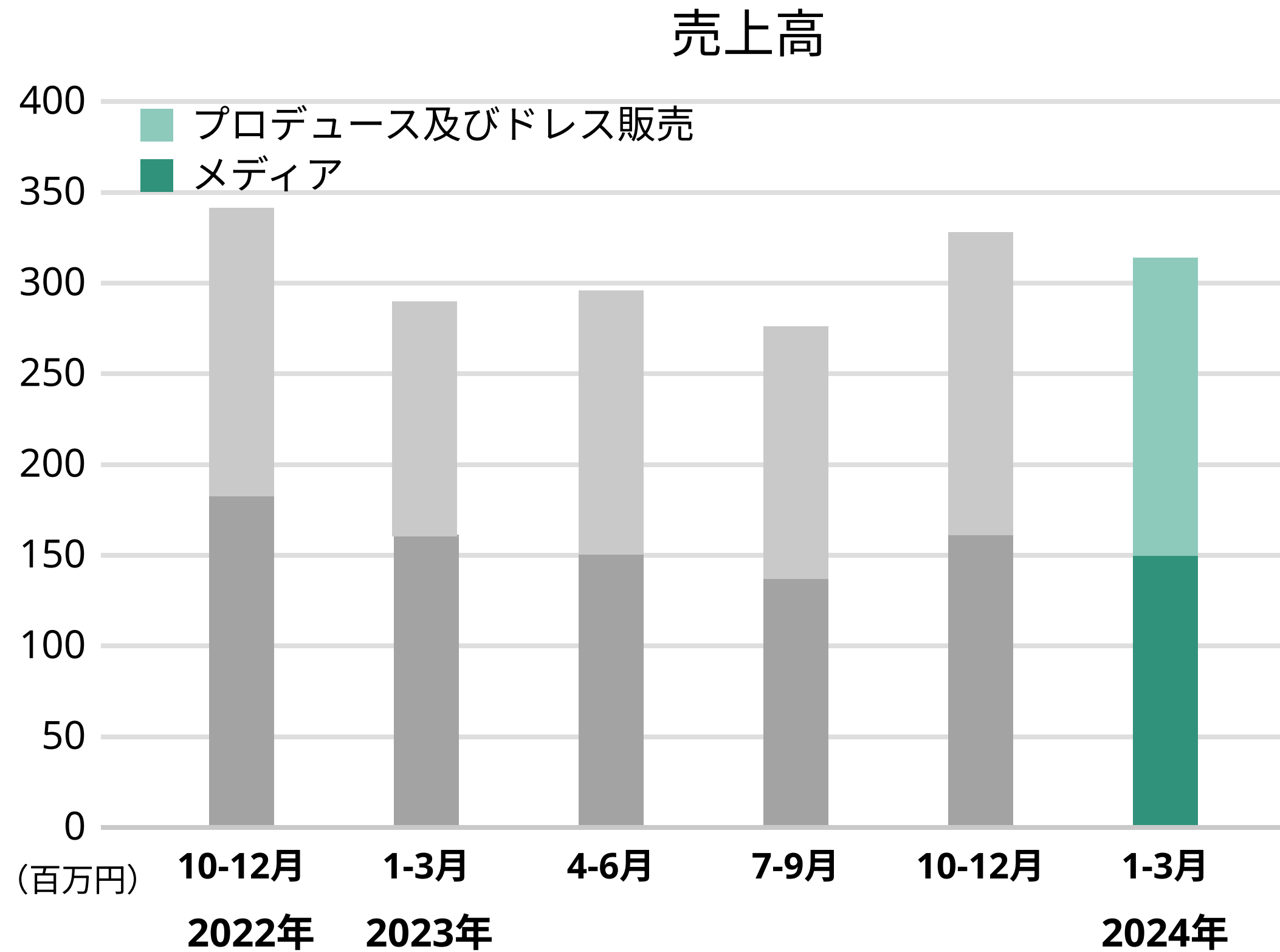


※1：2022年10月1日付で(株)オウチーノ及び(株)おうちのくふうを(株)くふう中間持株会社に統合し、(株)くふう住まいへ商号を変更。

※2：ローカルの住まい情報メディア「くふうイエタテ」及び家づくりの相談窓口「くふうイエタテカウンター」（2023年4月1日付で(株)しずおかオンライン（現(株)くふうしずおか）から(株)くふう住まいへ事業承継）。

# 結婚領域 業績 四半期推移

- 通期での黒字化に向けて、概ね計画通りの進捗
- メディア事業は収益力強化に向けて商材拡充を推進（5月にWEB招待状サービス事業を取得）
- 結婚式プロデュース事業において、施行及び受注が増加傾向



くふうカンパニーグループが提供する全ての事業において、  
オンライン・オフラインのサービスをワンストップで提供し、

## No.1のサービスへ

**買い物**      3年後に契約店舗数 & ユーザー数で圧倒的 No.1

**住まい**      5年後に住宅関連施工取扱い件数 No.1

**結婚**      5年後に結婚式取扱い件数 No.1



本資料の作成に当たり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズ及びユーザーの嗜好の変化、他社との競争、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。なお、当社は、新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された将来の見通しを修正して公表する義務を負うものでもありません。

## お問い合わせ

コーポレート・コミュニケーション部 IR担当

E-mail : [ir@kufu.co.jp](mailto:ir@kufu.co.jp)      HP : <https://kufu.company/>